

目次 III ページ

2.4 日射と大気放射 → 太陽放射と地球放射

2.4.2 短波放射(日射)と長波放射(大気放射) → 太陽放射(短波放射)と地球放射(長波放射)

目次 V ページ

5.4 積雪面 → 積雪層

5 ページ下 10 行目から下 6 行目

次いで南極・・・いわざるを得ない

→

次いで南極大陸や北極海にある氷が 2.4%、地下水として存在する淡水が 0.6%、湖沼・河川などにある淡水が 0.02%である。淡水はほとんどが・・・いわざるを得ない。

5 ページ下 3 行目

地下水 → 淡水

10 ページ 6 行から 7 行

「ちなみに ... とみられている。」を削除する。

10 ページ 8 行目タイトル

2.4 日射と大気放射 → 2.4 太陽放射と地球放射

10 ページ下 9 行目

k, h → k はボルツマン定数、 h はプランク定数

13 ページ 7 行目

日射 → 短波放射、大気放射 → 長波放射

13 ページ 15 行目

気層からはキルヒホッフとプランクの法則により σT_a^4 の放射を吸収して

→ シュテファン・ボルツマンの法則により気層から放出される σT_a^4 の放射エネルギーを吸収して

14 ページ下 2 行目

正味放射量 → 純放射量

15 ページ 1 行目

正味放射 → 純放射量

15 ページ 図 2.8 の中の説明

正味放射量 → 純放射量、熱フラックス → 熱輸送量

16 ページ 下 9 行目

図 2.9 には植物の反射特性が示されている。 → 図 2.10 に様々な地表面における分光反射特性を示す。

16 ページ 下 4 行目

近赤外バンドの値 → 近赤外バンドの反射率

可視バンドの値 → 可視バンドの反射率

17 ページ 6 行目

正味放射量 → 純放射量

17 ページ 図 2.10 の差し替え。

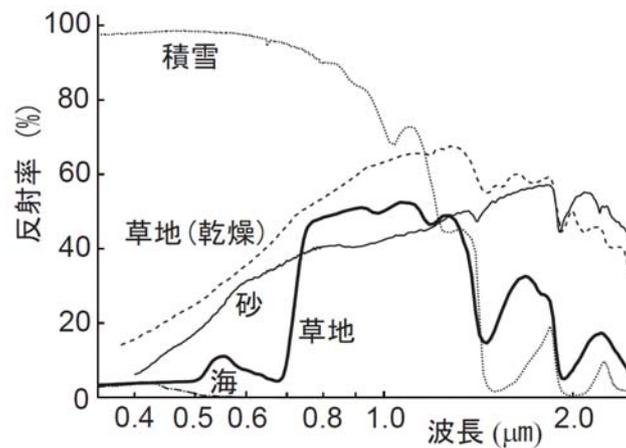


図 2.10 様々な地表面における可視・近赤外域の分光反射特性 (気候変動の解明にむけて-Global Imager がとらえた地球- (2006, JAXA EORC) より作成)

17 ページ 図 2.10 のすぐ下

「図 2.10 は植生分布の一例である。」を削除する。

18 ページ 図 2.11 の中の説明

正味放射量 → 純放射量、フラックス → 輸送量

39 ページ式(3.18)、(3.21)、(3.22)、(3.23)

積分記号に積分区間を追加して

\int を \int_0^∞ とする。

40 ページ 1 行目

てして → として

47 ページ 10 行目

勾配ができて乱流拡散により大気は乱される → 勾配ができて大気は乱される

47 ページ下 9 行目

鉛直方向に → 鉛直上方向に

49 ページ 12 行目

風速の差 → 水平風速の鉛直方向の差

50 ページ 13 行目

渦粘性係数 → 渦動粘性係数

55 ページ下から 2 行目。2 個目の=を削除する。

$$\bar{u} = \frac{u^*}{k} = \ln \frac{z}{z_0} \rightarrow \bar{u} = \frac{u^*}{k} \ln \frac{z}{z_0}$$

58 ページ 4 行目

気温・比湿と → 気温・比湿・風速と

59 ページ 12 行目

となるため、2 高度での → となるため、大気圧 p 、2 高度での

61 ページ下 8 行目。分子にある 2 つの ρ のうち、後ろの ρ を削除する。

$$\text{右辺第一項} \quad \frac{\Delta\rho C_p \rho}{\gamma_E} (T_s - T_a) \rightarrow \frac{\Delta\rho C_p}{\gamma_E} (T_s - T_a)$$

71 ページ 5.4 タイトル

積雪面における… → 積雪層における…

77 ページ下から 10 行目

…を用いた実験式 → …を用いた経験式

78 ページ 17 行目

冷却熱量 → 単位面積当たりの冷却熱量

78 ページ 17 行目。 ρ_w を削除する。

$$-W_c \rho_w L_m \rightarrow -W_c L_m$$

78 ページ 18 行目。 ρ_w を削除する。

$$-W_c \rho_w L_m \rightarrow -W_c L_m$$

78 ページ 20 行目。 ρ_w を削除する。

$$-W_c \rho_w L_m \rightarrow -W_c L_m$$

78 ページ 21 行目、 ρ_w を削除する。

$$W_c \rho_w L_m + Q_m \rightarrow W_c L_m + Q_m$$

78 ページ (5.19)式

右辺分母の $\theta L_m \rightarrow L_s$

86 ページ 図 6.5 のキャプション

…不飽和水係数 → …不飽和透水係数

96 ページ下から 10 行目

「あるいは水面勾配」の部分を削除する。

99 ページ下 3 行目

キネマティックウェーブ → キネマティックショックウェーブ

101 ページ 8 行目

キネマティックウェーブ → キネマティックショックウェーブ

104 ページ下から 6 行目

s, w は…での流量と流積 → s, w は…での流積と流量

106 ページ 2 行目

収束する円錐面では → 収束または発散する円錐面では

122 ページ 2 行目 式(8.26)を以下に修正

$$\frac{\partial Q}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{Q^2}{A} \right) + gA \left(\frac{\partial h}{\partial x} - i_0 + I_f \right) = 0$$

122 ページ 4 行目 式(8.27)を以下に修正

$$\frac{\partial h}{\partial x} = i_0 - I_f$$

148 ページ 1 行目式(10.1)

右辺式中の c を b に変更する。

148 ページ 4 行目

c は $\rightarrow b, c$ は

148 ページ 9 行目

パラメタ c を \rightarrow パラメタ b, c を

148 ページ 14 行目

流量の \rightarrow 雨量の

148 ページ 16 行目

パラメタ c の \rightarrow パラメタ b, c の

148 ページ下 7 行目式(10.3)

右辺式中の c を b に変更する。

149 ページ 3 行目

しかしながら \rightarrow しかし

149 ページ 5 行目

非線形フィルタを用いたり、適当な \rightarrow 非線形フィルタや適当な

149 ページ 12 行目式(10.5) 右辺に d_k を追加する。

$$x_{k+1} = \Phi_{k+1,k} x_k + \Gamma_k w_k \rightarrow x_{k+1} = \Phi_{k+1,k} x_k + d_k + \Gamma_k w_k$$

149 ページ 13 行目式(10.6) 右辺に e_k を追加する。

$$y_k = H_k x_k + G_k v_k \rightarrow y_k = H_k x_k + e_k + G_k v_k$$

149 ページ 15 行目

$(p \times p)$, y_k は \rightarrow $(p \times p)$, d_k は定数ベクトル($p \times 1$), y_k は

149 ページ 16 行目

$(q \times 1)$, w_k は \rightarrow $(q \times 1)$, e_k は定数ベクトル($q \times 1$), w_k は

150 ページ 11 行目 式(10.11) 右辺に d_k を追加する。

$$\hat{x}_{k+1|k} = \Phi_{k+1|k} \hat{x}_{k|k} \rightarrow \hat{x}_{k+1|k} = \Phi_{k+1|k} \hat{x}_{k|k} + d_k$$

150 ページ 16 行目 式(10.14) 右辺の括弧 [] の中に $-e_k$ を追加する。

$$[y_{k+1} - H_{k+1} \hat{x}_{k+1|k}] \rightarrow [y_{k+1} - H_{k+1} \hat{x}_{k+1|k} - e_k]$$

151 ページ 1 行目 式(10.16)

右辺式中の c を b に変更する。

151 ページ 3 行目 式(10.18) 右辺 $g()$ 内に c を追加する。

$$y_k = g(x_k) + G_k v_k \rightarrow y_k = g(x_k, c) + G_k v_k$$

151 ページ 16 行目

①<初期化> $k=0$ とおく \rightarrow 現在時刻を k とおく。

183 ページ 2 行目の式を以下に修正。右辺分母の dx を ∂x , dy を ∂y に変更する。

$$\frac{d\bar{z}}{ds} = \frac{\partial Z}{\partial x} \frac{d\bar{x}}{ds} + \frac{\partial Z}{\partial y} \frac{d\bar{y}}{ds} \rightarrow \frac{d\bar{z}}{ds} = \frac{\partial Z}{\partial x} \frac{d\bar{x}}{ds} + \frac{\partial Z}{\partial y} \frac{d\bar{y}}{ds}$$

183 ページ 3 行目

式(A.3)を代入 \rightarrow 式(A.2), (A.3)を代入

183 ページ 5 行目

式(A.3), (A.5), (A.6)から \rightarrow 式(A.2), (A.3), (A.5), (A.6)から